様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２９ 日現在

機関番号：３４３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｈ０２００８

研究課題名（和文）変動帯の文化地質学

研究課題名（英文）Culture geology of active plate margin

研究代表者
鈴木　寿志（Suzuki, Hisashi）

大谷大学・社会学部・教授

研究者番号：６０３０２２８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,200,000円

研究成果の概要（和文）：20を超える個別研究成果から、変動帯における地質文化の特徴を明らかにした。一つには、日本に地質に関わる文化が意外に多く存在することである。変動帯故に大きな石材が得にくいという事情があるものの、新生代の凝灰岩などを小さな丁場であっても、巧みに活用している。また一つには、山岳霊場や磨崖仏などの仏教文化や文学作品などに地質素材が取り入れられるなど、精神面との親和性が大きいことが挙げられる。このように日本の地質文化には、物質として利用する側面と宗教や文学などの精神活動と密接に関わる側面の両面が認められる。特に精神面との親和性は、日本文化における地質学的な特質として認められる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまで理系学問として扱われてきた地質学に、人と関わる部分の研究を加味した文化地質学を発展させた。それにより、日本文化における地質学的側面の理解が大きく進んだ。石材研究において帯磁率を併用することで、確実に石材の由来を明らかにすることができるようになった。また日本の地質文化に仏教や文学作品などの精神面との親和性が明らかになった。特に精神性に関わる成果は従来の文化地質学の研究からは見えてこなかった部分であり、海外の研究でもほとんど確認されない。日本の文化地質学が世界に先駆けて、地質と人々の関係を明らかにしつつある。この成果を日本国民に還元し、私たちの住む大地の理解に繋げられると期待される。

研究成果の概要（英文）：Over 20 researches on the Japanese geocultures were conducted by each researcher. One of the characteristics of Japanese geoculture is concerned with stone materials even from small pyroclastic rock quarries, although Japanese geomaterials are highly damaged by tectonic activities. Another characteristics are concerned with religious object and site of Buddhism like stone Buddha statues and asceticism site of steep mountains. Novel works with geomaterials (minerals, stones etc) are also important aspect of Japanese geoculture. There are two aspects of Japanese geoculture, i.e. material uses and spiritual activities. Especially, spiritual aspect of Japanese geoculture is peculiar feature in comparison with European geoculture, which is caracterised by traditional stone buildings.

研究分野：地質学

キーワード：石材　山岳霊場　地質文学　結界石　磨崖仏　石造物　地学教育　ミャンマー

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

研究代表者は 2003 年のオーストリー国留学中に Kulturgeologie という学問分野に出会い「文化地質学」と訳して日本に紹介するとともに、日本で研究を発展させる必要性を説いた。「文化地質学」は、それまで自然科学の一分野とされてきた地質学に人文科学の見地を取り入れたもので、いわば人と地質の関わりについて考える学問分野である。研究代表者は 2014 年 9 月に鹿児島で行われた地質学会学術大会にて文化地質学の講演会（セッション）を初めて開催した。その後 2015 年９月には長野の、また 2016 年９月には東京の地質学会学術大会にて、文化地質学の講演会（セッション）世話人を務めた。これらの学会活動を通じて知り合った研究者たちと平成 27・28 年度の科研費（挑戦的萌芽研究）「文化地質学：人と地質学の接点を求めて」の下で文化地質学の研究を発展させてきた。科研費研究分担者・連携研究者たちの研究成果に加え、地質学会学術大会での講演をもとに、2016 年８月に月刊地球誌号外において文化地質学の特集号を編集し、合計 15 篇の研究論文を世に送り出すことができた。

これらの文化地質学の学会講演や論文では、それまでの地質学研究では扱われなかったものの、地質学者たちが興味をもってみてきた事例が数多く示された。たとえば、城の石垣の岩石種と産地の関係、シシ垣と呼ばれる田畑を猪から守るべく積まれた石垣の分布、夫婦岩信仰の歴史的背景、日本の石碑石材の多くが宮城県石巻産の井内石であること、水戸徳川家が斑石（まだらいし）という蛇紋岩石材を好んで使ったことなど、いずれも自然科学に限定された地質学では論文として認められなかった研究成果が示された。日本の文化・文明については、和辻哲郎の「風土論」、そして梅棹忠夫の「文明の生態史観」といった代表的な論考があるが、いずれも気候・風土・地理・歴史を重視し、大地の内容である地質や大地の変動に基づく文化・文明論ではなかった。

しかし、1995 年 1 月の兵庫県南部地震以降活発化した日本列島の地震活動は、2011 年には東北地方太平洋沖を震源とする大地震と巨大津波を引き起こし、2 万人近い死者を出す結果となった。地震学者は東北の地震を予想できず、地質学者は過去の津波堆積物から警鐘を鳴らしつつも、積極的に情報を発信できなかった。地球科学は人々の幸福に本当に貢献しているのか、たいへん疑問をもつようになった。そもそも地質学を含む近代地球科学は、明治時代に輸入され、たかだか 100 年ほどの歴史しかない。100 年は地質学的時間間隔では一瞬であって、その期間の研究のみで変動する日本列島の大地をすべて理解しようとするのは全く不可能である。

一方で、私たち日本人はあらゆるものに精霊が宿るという「八百万の神」の信仰をもっている。それは変動し荒ぶる大地に対して人間を超越した自然の力を感じ、畏敬の念を抱いた結果ではなかろうか。そのような信仰・哲学は、100 年程度で成立するようなものではなく、私たちの先祖が日本列島に住み始めてから数千年の長きにわたって培われてきた。近代地質学が研究対象としなかった人文知を十分に考慮した学問体系の中で、私たち日本人が変動帯の大地とともにどう生きていくか、考えていく必要がある。

２．研究の目的

研究代表者たちは、平成 27・28 年度の科研費（挑戦的萌芽研究）において、地質学に人文科学の見地を加味した「文化地質学」を提唱し、発展させてきた。本研究ではこの「文化地質学」を日本文化の実相を浮き彫りにするために適用し、特に日本列島を変動帯の代表例として、地質と文化の関連を考察する。地質災害が頻発する日本列島において、人々は磐座に神性を見出すなど、独特の自然観を持つようになった。それは数千年にわたり、人々が変動する大地と関わる中で成立した哲学であり、日本人が変動帯に生きる鍵が隠されている。地質学と人文科学の専門家が協働して、変動帯の文化特性を安定大陸の地質文化と対照させながら明らかにし、私たちが安心して変動帯で生きていくための方策を見出すことを目的とする。それは具体的な防災対策ではなく、人と変動帯の大地との関わりを研究成果として示すことで、一般の人々が大地とその中身の地質に親しみを持ち、関心を持つようにしていくことである。

３．研究の方法

研究代表者・分担者・協力者がそれぞれの課題を設定し、個別研究を推進する形を取った。個別研究の成果は文化地質研究会などの会合において発表され、研究代表者が年度ごとに個別研究の成果の取りまとめを行なった。以下に個別研究の方法を記載するが、主に現地での地質調査、現地での聞き取り調査、文献調査といった手法に集約される。

A．石材に関する研究方法

(1)近現代建築に用いられた石材について、採石された丁場の現地調査ならびに石材加工・販売業者を訪れ聞き取り調査を実施する。石造建築物で用いられている石材と対照させて石材種を同定する。

(2)城郭石材について、石材の岩石種を同定し記載するとともに、推定される産地を訪れて採石場所を確認する。

(3)中近世石造物の石材由来について、岩相の記載と帯磁率測定を行い、産地と見られる丁場

を訪れて石材の由来を確認する。この場合、古文書などの文献調査も石材産地を決める手助けとなる。

B．文化地質学を加味した地学教育・普及に関する研究方法

(1)小中学校の岩石園を訪れ、岩石種の同定をはじめとする現状確認を行うとともに、岩石園が設置された背景を考察する。また当時の理科教員から聞き取りを行う。

(2)地方博物館を拠点に、地元石材のミニ展示や観察会を実施する。

(3)幼児教育における岩石や砂の役割と意味を、現場の保育士への聞き取り調査や保育士養成校の学生へのアンケート調査を通じて明らかにする。

(4)学校校歌に歌われる地質景観を抽出し、地域における地質の存在意義を考察する。

(5)日本の昔話に見られる地質学的要素を抽出し、それらの認知度のアンケートを実施し、教科教育への応用を考察する。

C．地質に関わる文学作品・古文書の研究方法

(1)宮沢賢治などの日本地質文学とブロッケスなどのドイツ文学の作品を対照させ、地質に関わる人々の見方を比較する。

(2)古文書に記述された地震災害記録を解析し、地震規模を復元するとともに、当時の人々がとった対応を読み取る。

(3)松尾芭蕉の俳句に読まれた地質景観の現地調査を踏まえて、地質と文学の関連を考察する。

D．宗教と地質に関する研究方法

(1)山岳信仰や修験道行場の現地を訪れ、地質の種類と信仰対象との関係を調べる。

(2)日本とタイにおける寺院の結界石の役割と岩石種を現地調査で記録する。

(3)磨崖仏の立地条件を現地における地質分布と照らし合わせて、考察する。

E．人々の暮らしと地質に関する研究方法

(1)地盤の地質条件と農作物との関係を、現地での地質調査と農家や醸造所などへの聞き取り調査を通じて記録する。

F．海外の変動帯における地質観の研究方法

(1)日本と同じ変動帯に属するフィリピンとミャンマーについて、前者はオンライン通話を通じた聞き取り調査を、後者は研究者を招聘し具体的内容を講演してもらう形で進める。

４．研究成果

以下に上記の研究手法に対応する研究成果を記述するとともに、それらを総括した成果を最後に述べる。

A．石材に関する研究成果

(1)日本では明治時代に西洋文化の流入に伴って、石造建築物への需要が高まった。明治・大正・昭和初期には国内でも多く採石され、石材として出荷された。茨城県の真壁石、徳島県の大理石（加茂更紗、茶竜紋など）、茨城県の大理石（水戸寒水石）、静岡県の伊豆石の丁場を訪れるとともに、都内の近代建築物（旧岩崎邸、旧島津邸など）の石材調査を行った。

(2)山形城の城郭石材に関して、石垣石材と内部の栗石の岩石同定を進めた結果、山形城から約８㎞ 以内の範囲から石材が収集され、礎石については扇状地礫でほぼまかなわれていることが明らかにされた。

(3)中近世の歴史的石造物の石材について、東北地方から中国・四国地方までの代表的石材産地との関係を明らかにした。秋田県の院内石、群馬県の藪塚石・天神山石・秋間石・牛伏砂岩、栃木県の岩舟石・茂木石・芦沼石・磯山石、千葉県の房州石、静岡県の伊豆石、兵庫県の御影石・袴狭石などと但馬地方の玄武岩・蛇紋岩、島根県の来待石、香川県の豊島石と多岐に渡る。帯磁率を併用した客観的データによって、従来曖昧であった石材産地がより明確になり、石材流通にかかわる議論に一石を投じる事となった（例えば、京都市の安楽寿院の石像が香川県火山（ひやま）産の凝灰岩ではないことが明らかになった）。

B．文化地質学を加味した地学教育・普及に関する研究成果

(1)かつて小中学校に整備されていたものの、最近は存在が忘れられつつある岩石園の岩石を同定し直し、理科教育に活かす方策を提案した。山形県の４つの小学校と１つの中学校、東京都の１つの小学校にて、岩石園の岩石種ラベルの再確認と修正を行なった。

(2)神奈川県内に産する石材の展示を、県立生命の星・地球博物館にて開催した（展示期間：2022 年 1 月 28 日～2023 年 3 月 17 日）。石材を「堅石」と「軟石」に分類した上で、代表的な石材を実物展示した。安山岩などの「堅石」として、本小松石、新小松石、根府川石、白丁場石を、凝灰岩などの柔らかい「軟石」として湯本石、風祭石、七沢石、久野石、鎌倉石、鷹取石を紹介した。これらのかつて人々の生活に欠かせなかった石材の展示は、地質学・歴史学・民俗学など多様な学問領域につながる文化地質学的な視点を紹介する展示となった。

(3)保育士養成校の学生にアンケート調査を実施した結果、石や鉱物についての知識が非常に乏しく、宝石や砂鉄などのわずかな知識のみであったことが明らかになった。一方で砂場は保育現場において重要な存在である。砂が何からできているのかなど「保育内容 環境」における地学素材の取り扱いの必要性を指摘した。

(4)神奈川県西部の２市４町の小・中・高等学校の校歌を対象に、歌詞に出てくる山・川・海・野・丘の項目を調べた。その結果、小学校の校歌に地質景観に関わる歌詞が多く見出された。地域景観は、地域の自然を理解する上で重要な要素であり、地域の地質と結びつけることで、効果的な地学教育の展開につながることを指摘した。

(5)日本の昔話に見られる地質学的要素として「塩吹き臼」を取り上げ、海の水が塩辛いという誰もが知る事実から、理科だけでなく国語、社会科、家庭科との分野横断的な連携が可能であることを示した。

C．地質に関わる文学作品・古文書の研究成果

(1)宮沢賢治の作品に見られる地学用語について、当時の学術書の解説や学術論文の記述と対照させながら解説した。それらは研究協力者の加藤碩一によって個人研究誌『地と人』第１号から第８号にまとめられた。一方ドイツ文学に見られる地質素材について、ブロッケスの詩「山」における崇高さの背景に自然神学があることを指摘した。

(2)下鴨神社の社家鴨脚家の日記史料から、1662 年に発生した寛文近江・若狭地震後の記述を分析し、被害を及ぼした本震のみならず、その後の記述を追跡することで、本震後約６ヶ月間の余震の継続と、その後の減少を定量的に明らかにした。

(3)松尾芭蕉が訪れた景勝地のうち、秋田県象潟、宮城県松島湾の多島海、山形県山寺の雲状浸食地形を訪ねた。これらは地質学的に興味深い景勝地であるが、いずれも火山活動によって生み出された景観である点で一致している。

D．宗教と地質に関する研究成果

(1)香川県小豆島と大分県国東半島に見られる山岳霊場の立地を地質学的に検討した結果、寺院の本堂・堂宇、祠のある岩窟などの宗教施設が、いずれも地質学的に軟質な凝灰角礫岩や凝灰岩に富む部分に作られていることが明らかとなった。

(2)タイ国の仏教寺院を訪れて、布薩を行う場を示す結界石の調査を行った。タイでは地上に置かれている結界石の他に、地下に埋設されている「ルーク・ニミット」があり、球状の岩石である。日本では唐招提寺などの初期の寺院に伝統的な「界」の概念を受け継ぐ結界石が認められるものの、それ以降は廃れてしまった。タイの寺院では初期仏教の伝統を今日まで守り続けている。

(3)大分県臼杵石仏群、奈良県大野寺弥勒磨崖仏、京都府笠置寺弥勒磨崖仏、滋賀県狛坂廃寺磨崖仏を訪れ、それぞれの岩石種と立地を調査した。前２者が凝灰岩、後２者が花崗岩に彫られている。凝灰岩と花崗岩という岩質の違いに着目し、磨崖仏の特徴と保存条件を考察した。

E．人々の暮らしと地質に関する研究成果

(1)鹿児島県の芋焼酎と山梨県の甲州葡萄酒を対象に、地盤条件と醸造文化を現地で調査した。その結果、いずれも水捌けの良い地盤条件でサツマイモと葡萄を栽培しているが、鹿児島県ではシラス台地からの湧水が良質な焼酎の醸造に欠かせないことが明らかとなった。また淡路島の三原平野の地盤条件として、諭鶴羽山地の砂岩層の浸食による砂の供給が、水捌けの良い土壌を構成し、特産のタマネギ栽培につながることを示した。

F．海外の変動帯における地質観の研究成果

(1)日本とフィリピンの若者を対象に「月」に関するイメージのアンケート調査を行い、日本では月の模様に関心がある一方、フィリピンでは全く模様を意識していないことが分かった。また 2019 年と 2022 年にミャンマーの研究者を招聘し、共同研究を進めるとともに、日本で講演会を催した。ポーウィンタウンの砂岩石窟寺院の例、チャーティーヨーパゴダの花崗岩巨礫の例を示し、地質と仏教の強い繋がりが示された。

以上の個別研究成果から、変動帯における地質文化の特徴が見えてくる。一つには、日本には地質に関わる文化が意外に多く存在することである。変動帯故に大きな石材が得にくいという特徴があるものの、新生代の凝灰岩などを小さな丁場であっても巧みに活用し、石造物を製作している。また一つには、山岳霊場や磨崖仏などの仏教文化と密接に関わる点や文学作品などに地質素材が取り入れられるなど、精神面との親和性が大きいことが挙げられる。このように日本の地質文化には、地質を物質（素材）として利用する側面と宗教や文学などの精神活動と密接関わる側面の両面が認められる（図）。特に精神面との親和性は、ヨーロッパなどの石造建築物がたくさん建てられた文化圏にはあまり見られない特徴であり、日本文化における地質学的な特質とみなされる。

ただし、そういった側面は教育現場で生かされているとは言い難い。地学が理科の科目に組み入れられた事で、「地質の精神性」には触れられなくなってしまったからである。日本の伝統的自然観に根差しながらも、理科としての地学を普及するためには、文系・理系の枠を取り払った新たな地学教育の普及を目指す必要がある。

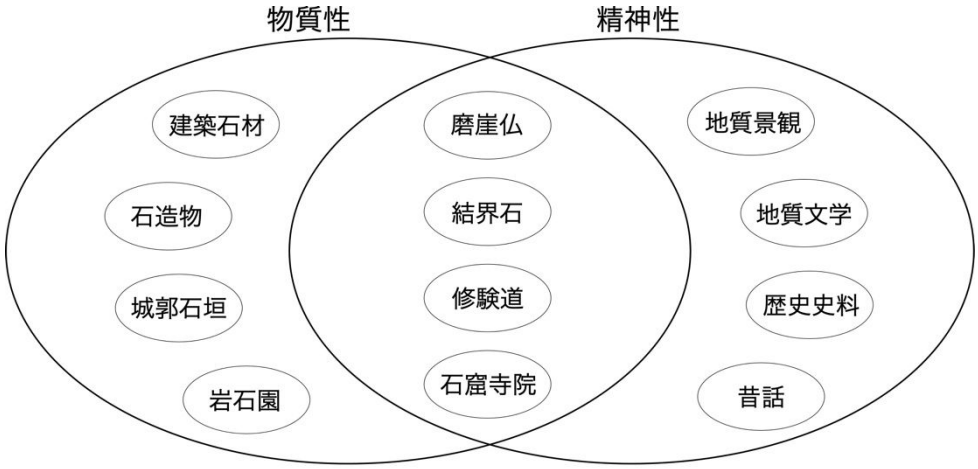

図　地質文化の物質性と精神性

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計62件（うち査読付論文　28件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　43件）

１．著者名 鈴木寿志	４．巻 100 (2)
２．論文標題 Die Kulturgeologie in Oesterreich und Japan	５．発行年 2021年
３．雑誌名 大谷学報	６．最初と最後の頁 45-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 清水洋平	４．巻 3 (2)
２．論文標題 布薩堂に設置される結界石－タイにおける仏教と文化地質学の接点として－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 地質と文化	６．最初と最後の頁 41-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 川村教一	４．巻 3 (1)
２．論文標題 大分県国東半島に分布する霊場内岩窟の地形・地質学的特徴	５．発行年 2020年
３．雑誌名 地質と文化	６．最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 川村教一	４．巻 3 (2)
２．論文標題 秋田県湯沢市上院内から産した「院内石」と 歴史的建築物石材の帯磁率による対比	５．発行年 2020年
３．雑誌名 地質と文化	６．最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊藤拓海・川村教一	4．巻 3 (2)
2．論文標題 兵庫県新温泉町新市の霊場付近に産する「石のハナ」の伝承について（予報）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 地質と文化	6．最初と最後の頁 56-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 川村教一・崎山正人	4．巻 31
2．論文標題 兵庫県養父市関宮町及び大屋町とその周辺に分布する近世・近代の蛇紋岩石造物の石材産地と用途の変遷	5．発行年 2021年
3．雑誌名 人と自然	6．最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24713/hitotoshizen.31.0_41	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 川村教一	4．巻 4 (2)
2．論文標題 秋田県横手盆地において近世~近代民俗宗教に用いられた「院内石」石材の変遷	5．発行年 2021年
3．雑誌名 地質と文化	6．最初と最後の頁 77-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 川村教一・伊藤拓海	4．巻 2
2．論文標題 民間医療で用いられた鉱物薬「石のハナ」の研究：兵庫県新温泉町新市洞ケ谷霊場の硫酸塩鉱物	5．発行年 2021年
3．雑誌名 地域資源マネジメント研究	6．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊藤拓海・川村教一	4．巻 2
2．論文標題 兵庫県新温泉町新市洞ケ谷史跡内の霊場の地形・地質学的特徴	5．発行年 2021年
3．雑誌名 地域資源マネジメント研究	6．最初と最後の頁 22-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 川村教一	4．巻 5（2）
2．論文標題 香川県から産した石材「豊島石」の岩相と帯磁率	5．発行年 2022年
3．雑誌名 地質と文化	6．最初と最後の頁 98-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 﨑山正人・川村教一・佐野恭平	4．巻 33
2．論文標題 兵庫県北部および京都府北部の近世～近代玄武岩製石造物の採石地の推定	5．発行年 2023年
3．雑誌名 人と自然	6．最初と最後の頁 49-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24713/hitotoshizen.33.0_49	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 先山　徹	4．巻 -
2．論文標題 高野山町石の石材	5．発行年 2023年
3．雑誌名 高野山町石実測調査報告書	6．最初と最後の頁 78-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤　孝	4．巻 2
2．論文標題 鏡の日本列島2：日本列島のかたち―なぜそこに陸地があるのか	5．発行年 2021年
3．雑誌名 生環境構築史web	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊藤　孝	4．巻 3
2．論文標題 3号の読み方：鉄はいつでもそこにある	5．発行年 2021年
3．雑誌名 生環境構築史web	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊藤　孝	4．巻 3
2．論文標題 鏡の日本列島3：鉄なき列島	5．発行年 2021年
3．雑誌名 生環境構築史web	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊藤 孝・石島恵美子・鈴木一史・千葉真由美	4．巻 71
2．論文標題 総合的な学習の時間における昔話の活用―教科を横断した総合的な学習の時間の実現にむけて―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 茨城大学教育学部紀要（教育科学）	6．最初と最後の頁 47-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34405/00019945	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 伊藤　孝	４．巻 4
２．論文標題 鏡の日本列島４：芭蕉と歩く「改造」後の日本列島	５．発行年 2022年
３．雑誌名 生環境構築史web	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 伊藤　孝	４．巻 5
２．論文標題 鏡の日本列島5：「お国柄」を決めるもうひとつの水	５．発行年 2022年
３．雑誌名 生環境構築史web	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 廣川智貴	４．巻 3（2）
２．論文標題 地質と文学の接点を求めて―『メッツラー文学シンボル事典』を手がかりに―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 地質と文化	６．最初と最後の頁 38-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大友幸子・碇　真美	４．巻 41
２．論文標題 山形県白鷹町蒔沢の花崗岩類	５．発行年 2021年
３．雑誌名 山形応用地質	６．最初と最後の頁 90-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大友幸子	4．巻 17 (4)
2．論文標題 山形市内の小中学校の岩石園とその岩石試料 ： 山形市立第三，第四，第五小学校および鈴川小学校と山形大学附属中学校の岩石園の比較	5．発行年 2021年
3．雑誌名 山形大学紀要（教育科学）	6．最初と最後の頁 133-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15022/00005004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 土門直子・大友幸子	4．巻 17
2．論文標題 生徒はどのように火成岩を観察しているのか―岩石教材園および「ミニ岩石園」2020学習プリントの分析結果―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 山形大学教職・教育実践研究	6．最初と最後の頁 46-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 乾　睦子	4．巻 15
2．論文標題 徳島県阿南市の大理石産地の歴史と現状	5．発行年 2022年
3．雑誌名 国士舘大学理工学部紀要	6．最初と最後の頁 41-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 田口公則・新井裕美・成瀬善之・荻野貴文	4．巻 84
2．論文標題 カバーストーリー表紙解説 “ 相模青石 ” の青色	5．発行年 2021年
3．雑誌名 神奈川地学	6．最初と最後の頁 2-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高橋直樹	4．巻 71 (1)
2．論文標題 特別講演 房総半島南部の地形と地質	5．発行年 2021年
3．雑誌名 温泉科学	6．最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 善本夏実・難波恒太・中村 緑・古居晴菜・石原大亮・鈴木寿志	4．巻 2
2．論文標題 放散虫化石と含有鉱物から推測する京都市東南部桃山丘陵の地質構造	5．発行年 2019年
3．雑誌名 地質と文化	6．最初と最後の頁 37-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊藤　孝・石島恵美子・鈴木一史・千葉真由美	4．巻 69
2．論文標題 教科横断的な学びの素材としての昔話－大学生における日本の昔話の認知度と今後の展開－	5．発行年 2020年
3．雑誌名 茨城大学教育学部紀要（教育科学）	6．最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 乾　睦子	4．巻 2019
2．論文標題 都内の建築石材を巡る	5．発行年 2019年
3．雑誌名 第73回地学団体研究会総会(東京)講演要旨集・巡検案内書	6．最初と最後の頁 117-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 乾　睦子・西本昌司	4．巻 13
2．論文標題 近代東京の洋館における国産大理石の利用－旧岩崎邸・旧島津邸・旧古河邸－	5．発行年 2020年
3．雑誌名 国士舘大学理工学部紀要	6．最初と最後の頁 117-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大友幸子・土門直子・御子柴真澄	4．巻 17
2．論文標題 岩石教材園を活用した「火成岩のつくり」の授業展開	5．発行年 2020年
3．雑誌名 山形大学紀要（教育科学）	6．最初と最後の頁 149-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15022/00004808	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 長谷川　遼・磯﨑行雄・大友幸子・堤　之恭	4．巻 128
2．論文標題 中央構造線（MTL）の活動開始時期 ―三河大野-伊平地域の低角度MTLに隣接する三種類の白亜系砂岩の砕屑性ジルコン年代からの制限―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 地学雑誌	6．最初と最後の頁 391-417
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5026/jgeography.128.391	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大友幸子・奥山遥香・羽根田裕	4．巻 39
2．論文標題 馬見ヶ崎川流域釈迦堂から小手沢川にかけての先新第三紀花崗岩類と貫入岩類の岩石記載	5．発行年 2019年
3．雑誌名 山形応用地質	6．最初と最後の頁 89-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田口公則	4．巻 25
2．論文標題 大磯町西小磯海岸の“石切り場”跡の探究	5．発行年 2019年
3．雑誌名 自然科学のとびら	6．最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤碩一	4．巻 7
2．論文標題 宮沢賢治と爬虫	5．発行年 2019年
3．雑誌名 かまくら・賢治	6．最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加藤碩一	4．巻 7
2．論文標題 宮沢賢治 in 東京	5．発行年 2019年
3．雑誌名 かまくら・賢治	6．最初と最後の頁 95-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加藤碩一	4．巻 138
2．論文標題 「早池峰」「早池峯」考	5．発行年 2019年
3．雑誌名 賢治研究	6．最初と最後の頁 22-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加藤碩一	4．巻 140
2．論文標題 「心象スケッチ」における「二重の風景」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 賢治研究	6．最初と最後の頁 16-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 内山隆弘・蟹澤聰史	4．巻 19
2．論文標題 東北大学片平キャンパスにおける歴史的建造物の石材に関する研究	5．発行年 2020年
3．雑誌名 東北大学総合学術博物館紀要	6．最初と最後の頁 21-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 梅田真樹	4．巻 1
2．論文標題 都市の道路脇や砂場の砂に含まれる重金属 - 東大阪市の例	5．発行年 2020年
3．雑誌名 乳幼児文教教育	6．最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 梅田真樹	4．巻 37
2．論文標題 なぜ保育者は石や砂について語らないのか	5．発行年 2020年
3．雑誌名 大谷大学真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 121-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 鈴木寿志	4．巻 1
2．論文標題 「チバニアン」ではなく「千葉期」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 地質と文化	6．最初と最後の頁 77-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 鈴木寿志・中川　充・大友幸子・石井正之	4．巻 73
2．論文標題 特集「北海道の文化地質学」の発刊にあたって	5．発行年 2019年
3．雑誌名 地球科学	6．最初と最後の頁 21－22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15080/agcjchikyukagaku.73.1_21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 川村教一	4．巻 1
2．論文標題 香川県小豆島山岳霊場の地形・地質学的特徴	5．発行年 2018年
3．雑誌名 地質と文化	6．最初と最後の頁 70-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 乾　睦子	4．巻 402
2．論文標題 国産石材と東京の近代化	5．発行年 2018年
3．雑誌名 東京人	6．最初と最後の頁 48－55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 乾　睦子	4．巻 15
2．論文標題 近代化と日本の石材産業の歴史	5．発行年 2018年
3．雑誌名 遺跡学研究	6．最初と最後の頁 98－101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 乾　睦子	4．巻 35
2．論文標題 聖心女子大学聖堂の大理石について	5．発行年 2019年
3．雑誌名 宗教と文化	6．最初と最後の頁 29－38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 乾　睦子	4．巻 12
2．論文標題 歴史的建造物に見られる国産大理石石材の調査－日本橋三越本店－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国士舘大学理工学部紀要	6．最初と最後の頁 275-280
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊藤　孝・伊藤　開	4．巻 68
2．論文標題 日本とフィリピンにおける若者の雷経験・雷理解：災害文化としての雷	5．発行年 2019年
3．雑誌名 茨城大学教育学部紀要（教育科学）	6．最初と最後の頁 463-482
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 蟹澤聰史	4．巻 1
2．論文標題 芭蕉の『おくのほそ道』の地質学と哲学	5．発行年 2018年
3．雑誌名 地質と文化	6．最初と最後の頁 47-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤碩一	4．巻 1
2．論文標題 文化地質学的観点から見る「奇岩・怪石」論考	5．発行年 2018年
3．雑誌名 地質と文化	6．最初と最後の頁 60－69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大友幸子	4．巻 38
2．論文標題 山形城二ノ丸土塁の巽櫓、坤櫓の石垣石材　石垣石材の産地を推定する	5．発行年 2018年
3．雑誌名 山形応用地質	6．最初と最後の頁 27－28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大友幸子・土門直子・御子柴真澄	4．巻 17
2．論文標題 「火成岩のつくり」における流紋岩教材資料	5．発行年 2019年
3．雑誌名 山形大学紀要（教育科学）	6．最初と最後の頁 35-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15022/00004585	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 門田真人・田口公則・須藤　清	4．巻 第81号
2．論文標題 東丹沢の石丁場跡群について―煤ケ谷石、七沢石、日向石―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 神奈川地学	6．最初と最後の頁 12-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 蟹澤聰史	4．巻 第58巻
2．論文標題 芭蕉の『おくのほそ道』と地質学	5．発行年 2017年
3．雑誌名 応用地質	6．最初と最後の頁 203-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 蟹澤聰史	4．巻 第58巻
2．論文標題 岩石学からみた石碑	5．発行年 2017年
3．雑誌名 応用地質	6．最初と最後の頁 348-351
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 乾　睦子	4．巻 第14巻
2．論文標題 稲田花崗岩地域における採石産業の成立について	5．発行年 2017年
3．雑誌名 遺跡学研究	6．最初と最後の頁 117-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大友幸子・八木浩司・土井正路 ・土門 直子	4．巻 17
2．論文標題 山形大学附属中学校岩石教材園の岩石分布図、等高線図および岩石試料リストの作成	5．発行年 2018年
3．雑誌名 山形大学紀要（教育科学）	6．最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15022/00004241	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大友幸子	4．巻 第37集
2．論文標題 二ノ丸隅櫓石垣石材調査	5．発行年 2018年
3．雑誌名 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書	6．最初と最後の頁 238-242
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤　孝	4．巻 第67号
2．論文標題 スカイプ英会話を活用した自然災害に対する感覚・防災意識調査の基礎資料: フィリピン・ヴィサヤ地域の場合	5．発行年 2018年
3．雑誌名 茨城大学教育学部紀要（教育科学）	6．最初と最後の頁 669-677
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18904/chigakukyoiku.69.4_199	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 長　秋雄	4．巻 第7巻
2．論文標題 小松市での凝灰岩を使った石文化	5．発行年 2018年
3．雑誌名 GSJ地質ニュース	6．最初と最後の頁 33-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 長　秋雄	4．巻 第7巻
2．論文標題 小松市の文化と産業を支えた凝灰岩とその帯磁率	5．発行年 2018年
3．雑誌名 GSJ地質ニュース	6．最初と最後の頁 44-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 奥村大介	4．巻 第95号
2．論文標題 エルンスト・ヘッケル、あるいは結晶の自然哲学―佐藤恵子『ヘッケルと進化の夢（ファンタジー）：一元論、エコロジー、系統樹』合評会のために	5．発行年 2017年
3．雑誌名 生物学史研究	6．最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24708/seibutsugakushi.95.0_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計135件（うち招待講演　26件／うち国際学会　6件）

1．発表者名 鈴木寿志
2．発表標題 日本および諸外国における文化地質学の進展
3．学会等名 日本地球惑星科学連合2020年大会
4．発表年 2020年

1．発表者名 高橋直樹・赤司卓也
2．発表標題 千葉県における石材利用の時代変遷
3．学会等名 日本地球惑星科学連合2020年大会
4．発表年 2020年

１．発表者名 北西由香里・藤田裕也・鈴木寿志
２．発表標題 有田みかんと地質（予察報告）
３．学会等名 文化地質研究会第4回研究発表会
４．発表年 2021年

１．発表者名 鈴木寿志
２．発表標題 日本の醸造文化と地質：薩摩芋焼酎と甲州葡萄酒を例に
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2021年大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 東 亮太・鈴木寿志
２．発表標題 青葉山の薬草と地質（福井県高浜町）
３．学会等名 文化地質研究会第5回研究発表会
４．発表年 2022年

１．発表者名 川村教一
２．発表標題 大分県北部の山岳霊場としての岩窟付近の地形・地質
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2020年大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 伊藤拓海・川村教一
２．発表標題 兵庫県新温泉町新市の霊場のタフォニに産する「石のハナ」について
３．学会等名 文化地質研究会第4回研究発表会
４．発表年 2021年

１．発表者名 川村教一・崎山正人
２．発表標題 兵庫県但馬～京都府丹後地方の玄武岩の帯磁率による識別の試み
３．学会等名 文化地質研究会第4回研究発表会
４．発表年 2021年

１．発表者名 川村教一
２．発表標題 秋田県湯沢市に分布する院内凝灰岩部層岩石の石材利用状況の変化：近世のいわゆる自然石から近代の「院内石」への転換
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2021年大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 高橋直樹・大木淳一
２．発表標題 房総半島における凝灰岩層の資源利用の一形態－「房州白土（房州砂）」
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2021年大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 川村教一・伊藤拓海
２．発表標題 兵庫県美方郡新温泉町のタフォニから産する石薬の同定
３．学会等名 日本第四紀学会2021年大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 川村教一
２．発表標題 兵庫県朝来市山東町の寿賀神社にある石燈籠の豊島石との対比可能性
３．学会等名 日本地質学会第128学術大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 石橋弘明
２．発表標題 兵庫県北但馬地域の近世・近代石造物にみられる花崗岩類石材について
３．学会等名 文化地質研究会第４回研究発表会
４．発表年 2021年

１．発表者名 川村教一
２．発表標題 古代～中世石造物に使われた中新統讃岐層群凝灰岩の記載岩石学的特徴
３．学会等名 文化地質研究会第5回研究発表会
４．発表年 2022年

１．発表者名 川村教一
２．発表標題 兵庫県淡路島に分布する凝灰岩製中世石造物石材の産地の推定
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2022年大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 高橋直樹・赤司卓也
２．発表標題 北関東地方における石材の採石・利用状況
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2022年大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 川村教一・崎山正人・中井淳史
２．発表標題 京都市安楽寿院の平安時代後期凝灰岩製石仏の石材産地の検討
３．学会等名 日本地質学会第129年学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 ジオパークとのかかわりの中で大学院を作った博物館の活動－兵庫県立人と自然の博物館と山陰海岸ジオパーク－
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2020年大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 花崗岩の帯磁率を利用した石材の産地同定法と、そこからわかる石材流通の変遷
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2020年大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 江戸時代の名所図会から見た六甲花崗岩の採石と流通
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2020年大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 ウェブサイトで掲載された「さざれ石」の文化地質学的検討
３．学会等名 文化地質研究会第４回研究発表会
４．発表年 2021年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 瀬戸内地域の花崗岩製石造物の、山陰－北陸地域における分布と時代変化
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2021年大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 土石流がもたらしたブランド石材：御影石（六甲花崗岩）
３．学会等名 日本地質学会第128年学術大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 和歌山県高野山参道における石塔婆（町石）の岩相と帯磁率
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2022年大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 兵庫県六甲山地南東麓、住吉－御影地域と芦屋－西宮地域の花崗岩とその利用形態
３．学会等名 日本地質学会第129年学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 中世石造物を構成する石材とその産地の岩石の帯磁率組成
３．学会等名 石造物科研成果報告会・国際シンポジウム
４．発表年 2023年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 岡山県新見市に伝わる藁蛇を使用した神事と伝説
３．学会等名 日本地質学会・市民対象オンラインシンポジウム
４．発表年 2023年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 中国地方～近畿地方における藁蛇神事の分布と地質的背景
３．学会等名 文化地質研究会第６回研究発表会
４．発表年 2023年

１．発表者名 廣川智貴
２．発表標題 地震を解釈するということ―クライストの『チリの地震』について
３．学会等名 文化地質研究会第５回シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 土門直子・大友幸子
２．発表標題 生徒はどのように火成岩を観察しているのか？（「岩石教材園」学習の分析）
３．学会等名 日本地学教育学会第74回全国大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 大友幸子・土門直子
２．発表標題 地域の岩石を用いた火成岩観察の教材作り
３．学会等名 日本地学教育学会第74回全国大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 大友幸子・齋藤　仁
２．発表標題 山形城二ノ丸土塁北東部のの土塀礎石の石材岩種について
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2021年大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 大友幸子・土門直子
２．発表標題 地域の火成岩学習教材2020の評価と改良点
３．学会等名 日本地学教育学会第75回全国大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 大友幸子・齋藤　仁
２．発表標題 山形城二ノ丸土塁北東部の土塀基礎礎石と馬見ヶ崎川河床礫の比較
３．学会等名 第75回地学団体研究会総会（福島）
４．発表年 2021年

１．発表者名 土門直子・大友幸子
２．発表標題 生徒はどのように火成岩を観察しているのか？その2 火成岩学習教材2020
３．学会等名 日本地学教育学会第75回全国大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 大友幸子・三澤裕之
２．発表標題 最上町材木遺跡の緑色石英の顕微鏡観察
３．学会等名 日本地質学会第128年学術大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Ohtomo, Yukiko
２．発表標題 Rock gardens in elementary and junior high school in Japan: evaluation of the current status and examples of utilization
３．学会等名 IX GeoSciEd 2022, the 9th International Conference on Geoscience Education（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Domon, Naoko & Ohtomo, Yukiko
２．発表標題 Rock identification practice using a rock garden and rock teaching materials
３．学会等名 IX GeoSciEd 2022, the 9th International Conference on Geoscience Education（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 大友幸子
２．発表標題 宮沢賢治「台川」地質巡検の地質
３．学会等名 第76回日本地学教育学会全国大会・島根大会，2022年度全国地学教育研究大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 石橋弘明・大友幸子
２．発表標題 活用を目的とした岩石園の岩石同定～東京都江戸川区のある小学校を例として～
３．学会等名 日本地質学会第129年学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 大友幸子・赤坂真奈
２．発表標題 宮沢賢治「台川」の地質概説
３．学会等名 日本地質学会第129年学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 大友幸子
２．発表標題 山形城の石材の特徴から推定される石材産地の範囲
３．学会等名 文化地質研究会第６回シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 西山昭仁
２．発表標題 宝永地震（1707年）前後の京都における有感地震の検討
３．学会等名 第37回歴史地震研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 西山昭仁
２．発表標題 近世京都における震災対応
３．学会等名 第9回「災害文化と地域社会形成史」研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 乾　睦子・西本昌司
２．発表標題 近代東京の洋館における国産大理石の利用について
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2021年大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 乾　睦子
２．発表標題 建築用国産大理石石材の産地と銘柄の変遷について
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2022年大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 石橋弘明
２．発表標題 石造物の伝説と石材産地同定－兵庫県豊岡市の「出世大師」の事例－
３．学会等名 文化地質研究会第５回研究発表会
４．発表年 2022年

１．発表者名 乾　睦子・西本昌司・中澤　努・平賀あまな
２．発表標題 国産建築石材の原石調査
３．学会等名 文化地質研究会第6回研究発表会
４．発表年 2023年

１．発表者名 田口公則
２．発表標題 地域石材を文化地質学の文脈に活かす：大磯町の石材「シンドーサキの石」を例に
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2020年大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 森野善広
２．発表標題 京丹後市袖志地区における海岸段丘のジオストーリー
３．学会等名 文化地質研究会第５回研究発表会
４．発表年 2022年

１．発表者名 高橋直樹・赤司卓也
２．発表標題 石碑に使用される石材－千葉県を中心に－
３．学会等名 日文研シンポジウム「日本文化の地質学的特質」（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 大友幸子
２．発表標題 瀧山信仰の古道を地質巡検でたどる－西蔵王と滝山火山の地形と地質－
３．学会等名 日文研シンポジウム「日本文化の地質学的特質」（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Maung Maung
２．発表標題 Study on granite exploitation to Kyaik Htiyo Pagoda (Golden-rock) in Kyaik Htiyo township, Mon state, Myanmar
３．学会等名 文化地質研究会特別講演会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 荒木志伸
２．発表標題 東北地方の石の文化財－山寺立石寺、出羽三山、松島の調査から－
３．学会等名 文化地質研究会第６回シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 鈴木寿志
２．発表標題 文化地質学と地学教育
３．学会等名 日本地学教育学会全国大会（秋田）
４．発表年 2019年

１．発表者名 鈴木寿志
２．発表標題 日本の宗教と地質学
３．学会等名 日本地質学会第126年学術大会（山口）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Suzuki, Hisashi; Teza Kyaw
２．発表標題 Culture geology in Japan and Myanmar
３．学会等名 The fourth International Congress on Geosciences of Myanmar and Surrounding Regions (GeoMyanmar 2020)（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 伊藤　孝
２．発表標題 自然理解の背景となる物語の重要性：フィリピン・ヴィサヤ地域を例として
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 伊藤　孝・石島恵美子・鈴木一史・千葉真由美
２．発表標題 地球科学的な学びの素材としての昔話－大学生における日本昔話の認知度と今後の展開－
３．学会等名 日本地学教育学会全国大会（秋田）
４．発表年 2019年

１．発表者名 伊藤　孝
２．発表標題 地球科学的な時間・空間スケールから考える都市
３．学会等名 日本建築学会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 いくつかのジオパークにおける大名の墓に使用されている石材－山陰海岸、島根半島・宍道湖中海、萩ジオパーク－
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 山陰地方の大名墓に使用された花崗岩石材の帯磁率
３．学会等名 日本地質学会第126年学術大会（山口）
４．発表年 2019年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 石材の産地を調べることで見えるジオパーク地域の歴史
３．学会等名 第10回日本ジオパーク全国大会－2019おおいた大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 先山　徹・NPO法人 地球年代学ネットワーク
２．発表標題 海と山をつなぐ川のジオパークの可能性－岡山県東部・吉井川流域－
３．学会等名 第10回日本ジオパーク全国大会－2019おおいた大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 大友幸子・奥山遥香・御子柴真澄
２．発表標題 山形市周辺の流紋岩教材とその特徴
３．学会等名 日本地学教育学会第73回全国大会（秋田）
４．発表年 2019年

１．発表者名 土門直子・大友幸子
２．発表標題 「岩石教材園」を活用した火成岩のつくりの授業展開（特に流紋岩の判別結果）
３．学会等名 日本地学教育学会第73回全国大会（秋田）
４．発表年 2019年

１．発表者名 矢口　徹・大友幸子
２．発表標題 山形県最上町の地形と地質の教材化　地域の大地の生い立ちと変化の学習
３．学会等名 日本地学教育学会第73回全国大会（秋田）
４．発表年 2019年

１．発表者名 大友幸子
２．発表標題 山形市立第三小学校，鈴川小学校の岩石園調査
３．学会等名 地学団体研究会東京総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 大友幸子・奥山遙香
２．発表標題 山形城二ノ丸隅櫓の花崗岩石垣石材の産地と地質
３．学会等名 日本地質学会第126年学術大会（山口）
４．発表年 2019年

１．発表者名 大友幸子・安保彩乃
２．発表標題 佐渡島鹿ノ浦海岸片辺礫岩の礫種組成・岩石記載
３．学会等名 日本地質学会第126年学術大会（山口）
４．発表年 2019年

１．発表者名 高橋直樹・新井田秀一
２．発表標題 蛇紋岩地域の地質と文化
３．学会等名 日本地質学会第126年学術大会（山口）
４．発表年 2019年

１．発表者名 森野善広・高木宏二・山本早織・堀　尚子
２．発表標題 宮崎県尾鈴山麓児湯地域の地形地質と地域資源ブランド化
３．学会等名 日本地質学会第126年学術大会（山口）
４．発表年 2019年

１．発表者名 石橋弘明
２．発表標題 兵庫県但馬地方北部における近世石造物の石材産地同定～岩相と帯磁率～その２
３．学会等名 日本地質学会第126年学術大会（山口）
４．発表年 2019年

１．発表者名 後　誠介
２．発表標題 熊野における霊場の文化的景観と地質
３．学会等名 日本地質学会第126年学術大会（山口）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 根井　浄
２．発表標題 近世 雲仙普賢岳の噴火と宗教界
３．学会等名 日本地質学会第126年学術大会（山口）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 川村教一
２．発表標題 秋田県北部の七座山とその近隣の山岳霊場の地形・地質学的特徴
３．学会等名 日本地質学会第126年学術大会（山口）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Suzuki, Hisashi
２．発表標題 Culture geology - Salzburg to Japan
３．学会等名 XXI International Congress of the Carpathian Balkan Geological Association (CBGA 2018) in Salzburg（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 山本奈津子・久田真由・須賀雅之・鈴木寿志
２．発表標題 京都市の石橋
３．学会等名 文化地質研究会第２回研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 川村教一
２．発表標題 大分県国東半島北部の山岳霊場付近の地形・地質
３．学会等名 文化地質研究会第２回研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 西山昭仁
２．発表標題 日記史料にみる前近代の京都での地震活動
３．学会等名 文化地質研究会第２回シンポジウム
４．発表年 2019年

１．発表者名 高橋直樹・赤司卓也・高木　淳
２．発表標題 千葉県産中・小規模石材の使用状況と地質環境
３．学会等名 日本地質学会第125年学術大会（札幌）ポスター
４．発表年 2018年

１．発表者名 高橋直樹・高木　淳・赤司卓也
２．発表標題 千葉県産中・小規模石材の使用状況と地質環境
３．学会等名 千葉県地学教育研究会平成30年度研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 乾　睦子
２．発表標題 石材としての水戸寒水石について
３．学会等名 文化地質研究会第２回研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 廣川智貴
２．発表標題 『この世における神の享受』にみられる崇高なもの
３．学会等名 文化地質研究会第２回シンポジウム
４．発表年 2019年

１．発表者名 梅田真樹
２．発表標題 東大阪市の道路上の土や砂の危険性
３．学会等名 日本子ども学会学術集会第16回子ども学会議
４．発表年 2018年

１．発表者名 梅田真樹
２．発表標題 なぜ保育者は石や砂について語らないのか
３．学会等名 文化地質研究会第２回研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 伊藤 孝
２．発表標題 自然現象・自然災害としての雷理解および雷との付き合い方：スカイプを活用したフィリピン・ヴィサヤ地域在住の若者への聴き取り調査結果
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2018年大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊藤 孝
２．発表標題 日本およびフィリピンの若者にとっての月
３．学会等名 文化地質研究会第２回研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 森野善広
２．発表標題 宮崎県南地域の地質とジオストーリー
３．学会等名 文化地質研究会第２回研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小林健太・大井修吾
２．発表標題 滋賀県内で紹介されている地形・地質の見どころの調査
３．学会等名 文化地質研究会第２回研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 先山 徹
２．発表標題 六甲山の地質特性がもたらした阪神間の災害と産業
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2018年大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sakiyama, Tohru; Matsubara, N.; Inokuchi, H.
２．発表標題 Geological background of local industries in Sanin Kaigan UNESCO Global Geopark
３．学会等名 8th International Conference on UNESCO Global Geoparks 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 先山 徹
２．発表標題 北前船によって流通した石材の研究とジオパーク間の連携の可能性
３．学会等名 第8回日本ジオパーク全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 先山 徹
２．発表標題 瀬戸内周辺花崗岩類石材の中～近世における流通の変遷とその意義－なぜ花崗岩のことを御影石と呼ぶのか－
３．学会等名 文化地質研究会第２回研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 加藤友規
２．発表標題 庭園の石材と先人の技
３．学会等名 文化地質研究会第２回シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 大友幸子
２．発表標題 山形大学附属中学校，山形市立第四，第五小学校の岩石園の岩石試料調査
３．学会等名 日本地学教育研究学会第72回全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 大友幸子・安保彩乃
２．発表標題 佐渡島鹿ノ浦海岸片辺礫岩の礫種組成
３．学会等名 日本地質学会東北支部総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 大友幸子・安保彩乃
２．発表標題 佐渡島鹿ノ浦海岸片辺礫岩の礫種組成の測定
３．学会等名 文化地質研究会第２回研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 田口公則
２．発表標題 足柄平野周辺の校歌にみる身近な自然景観
３．学会等名 日本地質学会第125年学術大会（つくば特別大会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 乾　睦子
２．発表標題 Building stones as an introduction to geoscience
３．学会等名 日本地球惑星科学連合2017年大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 加藤碩一
２．発表標題 宮沢賢治の地（ジオ）的世界
３．学会等名 市民フォーラム2017　in　仙台「東日本大震災の教訓―みちのくの地質と風土-」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 加藤碩一
２．発表標題 地学で旅する日本列島の山たち
３．学会等名 世田谷文学館（東京）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 鈴木寿志
２．発表標題 文化地質学のススメ
３．学会等名 地学団体研究会旭川総会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 加藤碩一
２．発表標題 文化地質学から観る北海道・樺太の宮沢賢治
３．学会等名 第71回地学団体研究会旭川総会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 大友幸子・齋藤　仁
２．発表標題 山形城　艮櫓の石垣石材について（予報）
３．学会等名 第71回地学団体研究会旭川総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 大友幸子・八木浩司・土井正路
２．発表標題 UAVを用いた岩石園の等高線図・岩石分布マップの作成 ー 山形大学附属中学校の例
３．学会等名 日本地質学会第124年学術大会（松山）
４．発表年 2017年

１．発表者名 川村教一
２．発表標題 香川県五色台と小豆島の山岳霊場の地形学・地質学的特徴の比較
３．学会等名 日本地質学会第124年学術大会（松山）
４．発表年 2017年

１．発表者名 高橋直樹・赤司卓也
２．発表標題 四国地方における近・現代石碑用石材の使用状況
３．学会等名 日本地質学会第124年学術大会（松山）
４．発表年 2017年

１．発表者名 乾　睦子
２．発表標題 首都圏の建造物における関東大震災前後の石材利用の変化
３．学会等名 日本地質学会第124年学術大会（松山）
４．発表年 2017年

１．発表者名 大友幸子・八木浩司・土井正路・土門直子
２．発表標題 山形大学附属中学校の岩石教材園の岩石分布図・岩石試料リストの作成
３．学会等名 日本理科教育学会第56回東北支部大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 土門直子・大友幸子
２．発表標題 山形大学附属中学校「岩石教材園」の活用『火山活動による火成岩のつくり』の授業展開
３．学会等名 日本理科教育学会第56回東北支部大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 西山昭仁
２．発表標題 近世京都における被害地震の特徴と要因
３．学会等名 第34回歴史地震研究会（つくば大会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 加藤碩一
２．発表標題 賢治と古生物～進化の流れに沿って
３．学会等名 鎌倉賢治の会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 加藤碩一
２．発表標題 イーハトーブの石を楽しむ
３．学会等名 平成29年度東山文化祭サイエンスカフェ（一関市）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Sakiyama, Tohru, Inokuchi, N. and Matsubara, N.
２．発表標題 An example of geo-stories among geological, biological and social heritages in San’in Kaigan Geopark
３．学会等名 5th Asia Pacific Geopark Network (APGN) 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 加藤碩一
２．発表標題 『春と修羅』の鱗木の下―盛岡高農教材掛図の世界―
３．学会等名 宮沢賢治学会イーハトーブセンター・春季セミナー（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 加藤碩一
２．発表標題 イーハトーブの樹木たち
３．学会等名 宮沢賢治学会イーハトーブセンター・春季セミナー・ギャラリートーク（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 鈴木寿志
２．発表標題 文化地質研究会の発足
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 長　秋雄
２．発表標題 戸室石と加賀前田家
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 乾　睦子
２．発表標題 茨城県稲田地域における花崗岩石材産業の成立
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 高橋直樹・赤司卓也
２．発表標題 本邦における凝灰岩質石材の利用
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 清水洋平
２．発表標題 仏教と文化地質学 ―タイの結界石を中心にして―
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 川村教一
２．発表標題 香川県五色台と小豆島の山岳霊場の地形学・地質学的特徴の比較
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 廣川智貴
２．発表標題 大地が崇高になるまで－18世紀ドイツの文芸理論を中心に－
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 長　秋雄
２．発表標題 小松市の「日本遺産」を文化地質学で応援する
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 石橋弘明
２．発表標題 兵庫県但馬地方北部における歴史的石造物の石材産地同定
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 大友幸子
２．発表標題 山形大学附属中学校の岩石教材園の岩石試料産地について
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 山陰海岸ジオパークの地質と食文化
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 西山昭仁
２．発表標題 歴史地震研究の現状と課題
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊藤　孝
２．発表標題 フィリピン・ヴィサヤ在住の若者の自然観・自然理解
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 田中彩葉・伊藤拓海・黒木晃太郎・河村康喜・鈴木寿志
２．発表標題 滋賀県近江盆地の山岳信仰―太郎坊阿賀神社を例に―
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 先山　徹
２．発表標題 西南日本の白亜紀火成活動に関連した石材の利用とその地質学的背景
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 大友幸子・齋藤 仁
２．発表標題 山形城　肴町向櫓の石垣石材について（予報）
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 森野善広
２．発表標題 丹後国風土記(羽衣天女)とジオツーリズム
３．学会等名 文化地質研究会第１回学術大会研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 田口公則
２．発表標題 身近な地形景観を基軸にジオの世界へ：それぞれの学校でなじみある景観は何だろうか
３．学会等名 神奈川地学会第6回神奈川の地学広場
４．発表年 2018年

〔図書〕　計11件

１．著者名 加藤碩一	４．発行年 2020年
２．出版社 自費出版	５．総ページ数 113
３．書名 『地と人』第三号　特集：イーハトーブの地貌	

１．著者名 加藤碩一	４．発行年 2021年
２．出版社 自費出版	５．総ページ数 105
３．書名 『地と人』第四号　特集：宮澤賢治の地的背景：天象・地象篇	

１．著者名 加藤碩一	４．発行年 2021年
２．出版社 自費出版	５．総ページ数 117
３．書名 『地と人』第五号　特集：宮澤賢治の地的背景：気象篇	

1．著者名 加藤碩一	4．発行年 2022年
2．出版社 自費出版	5．総ページ数 97
3．書名 『地と人』第六号　特集：（一）宮沢賢治の地的背景：気界異象篇、（二）宮沢賢治の地的背景：Sir Archibald Geikie篇	

1．著者名 加藤碩一	4．発行年 2022年
2．出版社 自費出版	5．総ページ数 102
3．書名 『地と人』第七号　特集：宮澤賢治の「北域地誌」	

1．著者名 加藤碩一	4．発行年 2023年
2．出版社 自費出版	5．総ページ数 130
3．書名 『地と人』第八号　特集：賢治の豊穣で多様な語彙力	

1．著者名 神奈川県立生命の星・地球博物館	4．発行年 2019年
2．出版社 神奈川県立生命の星・地球博物館	5．総ページ数 95
3．書名 2019 年度特別展展示解説書 アオバトのふしぎ -山のハト、海へ行く-	

１．著者名 加藤碩一	４．発行年 2019年
２．出版社 自費出版	５．総ページ数 105
３．書名 『地と人』第一号　特集：地史と古生物に見る万物流転	

１．著者名 加藤碩一	４．発行年 2020年
２．出版社 自費出版	５．総ページ数 97
３．書名 『地と人』第二号　特集：宮澤賢治の「西域地誌」	

１．著者名 高田祐一［編］・乾　睦子［分担執筆］	４．発行年 2019年
２．出版社 戎光祥出版	５．総ページ数 285
３．書名 産業発展と石切場	

１．著者名 松江市史編集委員会［編］（先山徹分担執筆）	４．発行年 2018年
２．出版社 松江市	５．総ページ数 1000
３．書名 松江市史　別編１松江城	

〔産業財産権〕

〔その他〕

公開ウェブサイト：文化地質研究会
https://sites.google.com/site/bunkageology/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	伊藤　孝 (Ito Takashi) (10272098)	茨城大学・教育学部・教授 (12101)	
研究分担者	乾　睦子（林睦子） (Inui Mutsuko) (10338296)	国士舘大学・理工学部・教授 (32616)	
研究分担者	先山　徹 (Sakiyama Tohru) (20244692)	兵庫県立大学・地域資源マネジメント研究科・客員教授 (24506)	
研究分担者	大友　幸子 (Ohtomo Yukiko) (40143721)	山形大学・地域教育文化学部・教授 (11501)	
研究分担者	清水　洋平 (Shimizu Yohei) (50387974)	大谷大学・文学部・研究員 (34301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	西山　昭仁 (Nishiyama Akihito) (50528924)	東京大学・史料編纂所・特任研究員 (12601)	
研究分担者	廣川　智貴 (Hirokawa Tomoki) (60410974)	大谷大学・文学部・准教授 (34301)	
研究分担者	田口　公則 (Taguchi Kiminori) (70300960)	神奈川県立生命の星・地球博物館・学芸部・主任学芸員 (82709)	
研究分担者	川村　教一 (Kawamura Norihito) (80572768)	兵庫県立大学・地域資源マネジメント研究科・教授 (24506)	
研究分担者	高橋　直樹 (Takahashi Naoki) (90250133)	千葉県立中央博物館・その他部局等・上席研究員 (82503)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	加藤　碩一 (Kato Hirokazu) (82626)	国立研究開発法人産業技術総合研究所・名誉リサーチャー	
研究協力者	蟹澤　聰史 (Kanisawa Satoshi) (70005784)	東北大学・名誉教授 (11301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	石橋　弘明 (Ishibashi Hiroaki)		
研究協力者	テッツァ　チョー (Teza Kyaw)	モニュワ大学・地質学教室・准教授	
研究協力者	マウン　マウン (Maung Maung)	ダゴン大学・非常勤講師	
研究協力者	奥村　大介 (Okumura Daisuke)	東京大学・教育学部・特任研究員 (12601)	
研究協力者	森野　善広 (Morino Yoshihiro)	パシフィックコンサルタンツ株式会社	
研究協力者	長　秋雄 (Cho Akio) (40357504)	国立研究開発法人産業技術総合研究所・地圏資源環境研究部門・主任研究員 (82626)	
研究協力者	加藤　友規 (Kato Tomoki) (90852765)	京都芸術大学・芸術学部・教授 (34319)	
研究協力者	大井　修吾 (Ohi Shugo)	益富地学会館・研究員	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	梅田　真樹 (Umeda Masaki) (44311)	京都西山短期大学・仏教保育専攻・准教授	
研究協力者	根井　浄 (Nei Kiyoshi)	肥前島原松平文庫・文庫長	
研究協力者	後　誠介 (Ushiro Seisuke) (14701)	和歌山大学・災害科学レジリエンス共創センター・客員教授	
研究協力者	荒木　志伸 (Araki Shinobu) (10326754)	山形大学・学士課程基盤教育院・教授 (11501)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ミャンマー	Dagon University	Monywa University		
フィリピン	Holy Name University			